

17	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17109008	エピジェネティックな異常による消化器癌発生の分子機構と診断・治療への応用	今井 浩三(札幌医科大学・学長)	B
<p>(意見等)</p> <p>1) 報告の中で重要な業績として記載されているもののいくつか(例 Nature Genetics 2006)を調べてみると、本基盤研究(S)補助金への Acknowledge がされていない。これは、論文作成に当たって、申請者のグループの貢献度が低いことを意味してはいないか。連名の論文については、どのぐらいの貢献があるのかを明確にすべきである。他にも、申請者本人のレビューであっても、内容は、epigenetics とは無関係のものが添えられているのもおかしい。MCA法の最初の論文についても、本グループの貢献は不明。この点を正確に記載していただきたいかった。</p> <p>2) 1) での論文を差し引くと、このプロジェクト独自の業績はまだみだである。</p> <p>3) Epigenetics は重要なテーマであるが、例えば epigenetic な変化を元に戻すことでがんが正常化するかどうかの検討が重要。全てに Jaenisch が行ったようなテストを望むものではないが、ただ調べればよいと言うのは、がんを知り克服したいと言う気概が低いように感じる。実際、この申請内容から、世界に先駆けるインパクトの高い業績がどのように出てくるのかはイメージしにくい。もう少し、新しい視点を提示してほしい。</p>				
18	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17109009	アンドロゲンとその標的因子による中枢性肥満と動脈硬化の制御の分子メカニズム	名和田 新(九州大学・大学院医学研究院・特任教授)	B
<p>(意見等)</p> <p>中枢性肥満の機序解明のために、ARKOマウスを用いた研究プロポーザルであるが、計画通りの進捗が見られず、基本的に申請者の命題である、アンドロゲンの中枢性肥満制御機構への本質的な切り込みが見られない。アンドロゲンと動脈硬化の研究コンセプトは、動脈硬化研究としてはあまりに全体像からかけ離れている。アンドロゲン受容体の中枢作用についての研究は、その機序にまでは到達していないが着実に成果は上がっている。</p> <p>現時点で、着眼点は面白いが、本研究の本質的分子機構に迫っているとは、今の成果からは読み取りにくく、一層の奮起が求められる。</p>				